

研究協力のお願い

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究題名：転倒スコアを用いた、転倒リスクの評価

1. 研究の対象および研究対象期間

2007年1月から2018年8月の間に、整形外科骨粗鬆症診に通院された方。

2. 研究目的・方法

本邦では高齢化に伴い、大腿骨近位部骨折や胸腰椎圧迫骨折が増加しており、これらは寝たきりの原因となります。とりわけ大腿骨近位部骨折は、受傷原因の80%近くが立った高さからの転倒です。転倒予防のためには、転倒リスクの高い人や、高くなりそうな人を早期に見つけ出すことが必要になります。我々も、握力や開眼片脚起立時間が短い人は、転倒リスクが高いということを報告してきました。しかしこれらは、横断的にある時点の転倒リスク状態を高い低いで分けた場合の握力や開眼片脚起立時間であり、縦断的に調べたものではありません。

そこで縦断的に研究を続け、転倒リスク者を早期に見るけだす方法は何か、という Clinical Questionのもと、「数年後の転倒リスク者の特徴を握力や開眼片脚時間から予測できる」という仮説をたて、まずは最小年数である2年間の追跡調査を行い、2年間に転倒リスクを変えることができる因子が何かを調査することにしました。

研究期間

「医学部における人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから2019年12月31日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2007年1月1日から2018年8月31日までに当院整形外科及び東病院整形外科において骨粗鬆症の経過観察のために受診している患者診療録の中から、運動測定項目（転倒スコア、握力、開眼片脚起立時間）

が測定されている外来患者のデータを用いる。患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）および臨床検査項目（血液、生化学、X線、骨密度）、運動測定項目（転倒スコア、握力、開眼片脚起立時間）を調査項目とします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士